す　スキルかな？　美術の根っこ　やはりスキ

Keyword：すきこそものの上手，内発的動機，誰のためなんのため

学生作品（広島文教女子大学）

そもそも美術はなんのため，そして誰のためにあるのでしょうか。世のため，人（他者）のためでしょうか。否です。結果としてそうなるケースがなくはないとは思いますがそれが前提ではないと私はとらえています。

「スキ」については“内発的動機”に置換できます。先人の「好きこそものの上手」につながります。レオナルド・ダ・ヴィンチしかり。超4000本安打のイチロー選手しかり。画家岩下哲士（Page29）氏もそうです。偉業の裏には「スキ」があるのではないでしょうか。「スキ」だからこそおおよその人は，「もっと上を，さらに高みを」と，時には厳しく苦しいことでも乗り越えていけるのではないでしょうか。逆順はおおよそないと私は考えています。

ではこの文脈，はたして学校等における美術教育の場で了解されているでしょうか。私はときどき（しばしば？）不可解な状況に遭遇することがなくはありません。“まず技術指導をッ”との文脈です。“かけない”から“キライ”ということらしいのです。私は４０年余美術教育に携わりこのこといまだに同意できません。

上掲の作品は「十六武蔵〈さ（Page63）〉という日本古来のゲームの駒です。お寿司大好き，そして粘土大好き，ものづくり大好きな学生が紙粘土で制作しました。圧倒されました。この作品，私が「させた」のではありません。学生が「した」のです。若気の至りで過ちを犯した（44ページ）の頃から脱皮した私は「強制」はやはり美術教育にはなじまないと考えてます。「強制」の後ろには，かつての私がそうであったように「こうさせたい」との指導者の「思い（込み）」があるのではないでしょうか。